

平成 28 年度 国立大雪青少年交流の家教育事業  
「泊まって 遊んで 親子でポン」事業報告書

1 事業実施の背景

文部科学省が実施した「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究（平成 19 年から平成 21 年）では、「多くの友達と活発に遊びを楽しむ幼児ほど運動能力が高い傾向がある」という結果が報告されている。幼児にとって楽しく体を動かして遊ぶことは、児童期や青年期の運動やスポーツに親しむ資質や能力を育成するだけでなく、意欲や気力、対人関係などのコミュニケーション能力、社会性や認知的な能力などを育む機会となる。

このため、幼児期に必要な多様な動きの獲得や、体力・運動能力の基礎を培うことを目的として、国立青少年教育振興機構は「幼児期の遊びを中心とした運動プログラム開発・普及委員会」を設置し、遊びながら自然に「36の基本的な動き」が身に付く“場”と“きっかけ”づくりとなる運動プログラムを開発した。

以上を踏まえ、当交流の家では、幼児期の運動プログラム「36の基本的な動き」を取入れた活動を幼稚園、保育園、家庭等において広く普及し、その成果を広く周知することを通して、幼児期における体験活動の重要性の取組みを促進するためにこの事業を計画、実施した。

2 事業趣旨

国立青少年教育振興機構において開発した、幼児期の運動プログラム「36の基本的な動き」を取り入れた活動を幼稚園、保育園、家庭等において広く普及し、その成果を広く周知することを通して、幼児期における体験活動の重要性の取組みを促進する。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

4 後援 北海道教育委員会 美瑛町 美瑛町教育委員会

5 事業概要

- ・期日 平成 29 年 2 月 4 日（土）～ 5 日（日）（1泊2日）
- ・会場 国立大雪青少年交流の家
- ・対象 上川管内市町村の幼稚園又は保育園に通う園児を含む親子
- ・定員 30 組・60 名程度
- ・講師 北翔大学教育文化部教育学科准教授 伏見 千悦子 氏

6 目的の達成指標（アウトプット）

参加者の満足度

7 広報

参加の主対象者としている、幼稚園、保育園の対象者として、旭川市内の幼稚園及び認可保育園の全て、旭川市近隣市町村である、鷹栖町、当麻町、比布町、上川町、愛別町、東神楽町、東川町、美瑛町、上富良野町、中富良野町、富良野市の幼稚園及び認可保育園の全てに、対象者全員にチラシを配布。また、旭川市内の幼稚園、保育園長の集会に出向き広報を実施した。また、旭川市、美瑛町の子育てサークルに依頼し、チラシを配布した。



「読み聞かせ（子供）」（60分）

【講師 美瑛町読み聞かせの会、あいあい】

親が伏見先生より遊びを学ぶ間、子供たちは読み聞かせを楽しんだ。また、読み聞かせの他にもクイズや体を動かす遊びを取入れた。



③体験「スノーキャンドル」（60分）

【講師 国立大雪青少年交流の家 企画指導専門職】

子供たちと冬の遊びを楽しむ方法の1つとして簡単に組み立てるスノーキャンドル作りを体験した。親子が一緒になって、雪の壁に手で小さな穴を掘り、その中にキャンドルを灯し、ほのかな明るさに心穏やかに時間を過ごした。



④体験「読み聞かせ」（就寝前）

就寝前の時間に、各家庭で絵本の読み聞かせを行った。絵本は、交流の家の読書コーナーより選び、寝る前の親子の時間を楽しんだ。



⑤体験「雪で遊ぼう」（90分）

【講師 国立大雪青少年交流の家 企画指導専門職】

親子スノーシュー体験と、チューブ・そり体験の2つのグループに分かれ、冬の遊びを体験した。スノーシュー体験では新雪の中を親子で歩き、動物の足跡や、不思議な積もり方の雪を見つけたり、坂道を歩いたり、全身を使って体を動かした。チューブ・そり体験では大きなチューブを持って、何度も坂を上り、繰り返し親子で楽しんだ。



## 9 参加者アンケートから

(1) 総合的満足度

- ・満足 14 64%
- ・やや満足 7 32%
- ・記名無し 1 4%

> 「満足」「やや満足」を合わせて満足度は96%となった。

(参加者の声)

○満足できる内容でした。

○子供たちも同世代の友達ができて楽しく過ごさせていただきました。子供も親も大満足の1泊2日でした。

○子供とゆっくり遊べて満足でした。

## (2) プログラム

- ・満足 13 59 %
- ・やや満足 6 27 %

## (参加者の声)

- とても楽しく、子供たちも楽しみながら学べたが多かったと思います。
- 幼児プログラムの内容は、子供も楽しんでいました。
- 親子のコミュニケーションはもちろん、子供—子供、親—親も交流できるプログラムでした。
- 雪遊びが楽しかった。
- 親1人、子2人としては、1日目のプログラムは詰めすぎてちょっと辛かったです…

## (3) 事業運営

- ・満足 14 64%
- ・やや満足 6 27%
- 講師の方も素敵でよい時間でした。
- 満足です、
- 素晴らしかったです。
- とてもスムーズだったと思います。
- 子供が喜んでくれてうれしい。

## (4) その他参加者の声

- ゆとりあるプログラムでした。
- 新しい友達もでき、交流できてよかったです（親も子も）
- 低学年向けの事業もぜひどんどん多くなってほしいです。
- 企画はもちろん、「大雪青少年交流の家」を利用したのが初めてで、こんな素敵などころや活動があることを初めて知りました。これから、様々な形で利用させていただければと思います。
- ありがとうございました。子供の意外な一面を見ることができてよかったです。
- 普段と異なる環境（集団）の中で、自分の子供の興味・関心がどのようなところにあるかなど、客観的に見ることができました。
- 子供と楽しむ時間を満喫できました。
- 1つ1つのプログラムが長いように感じました。20～30分で1つというように区切ると子供の集中力が持つと思います。
- おやつタイムがあっても良かったかもしれません。子供たちの気分転換にもなったと思います。
- 知り合い同士の方も多く、その中に入って関係を築くのは難しかったです。

## 10 事業の成果

### (1) 事業背景の達成度

各プログラムの中で、「36の基本的な動き」がどの部分に取り入れられているのか説明を付け加えながら進めることで、遊びの中の動きを確認していただくことができた。

親子で共に遊ぶことを通してかなり体力を使うことや、子供の体力向上につながることを実感してもらうことができた。

また、身近な道具を使った遊びでは、遊びは難しいものではないことを体験し子供と

遊ぶことのきっかけづくりをすることができた。

さらに、遊びの中や音楽プログラムの中にコミュニケーションを深めることを意識して取り入れたことで子供同士のみならず、親同士の交流も深められており、対人関係などのコミュニケーション能力を育むことを伝えることができた。

大雪青少年交流の家を会場にすることで、冬の大雪ならではのパウダースノーの中でそり滑りやスノーシュー体験を「36の基本的な動き」で構成されたプログラムを作成・提供することができた。

## (2) 参加者の実際

家族での参加3組、男親、女親での参加はほぼ半分であり、3歳から6歳までの幼児もそれぞれ7名前後の参加であった。大半が旭川市内からの参加である。

参加者は意欲的に活動し、意識の高さをうかがわせた。

### <事業の指標に関する達成度>

満足度では、満足・やや満足を合わせて96%の満足度を得られている。記述においても満足度は高く、今後につなげて欲しいという記述も多く見られ、幼児・親子事業に対する関心の高さをうかがわせている。

## 1.1 事業の課題

### (1) 事業の趣旨

事業の趣旨は、体力向上(36の基本的な動き)の普及であったが、参加してくる親の求めているものは様々で、アンケート結果からも期待するものは家庭によって違っていた。

よって、事業の趣旨としては楽しく遊ぶ中で体をよく動かし、遊び方についても親が学ぶというスタイルでプログラムを進めていたが、家族間の交流を期待する声も多く見られたため、今後は事業の趣旨を明確に伝え、プログラムを進めていきながらも、趣旨に反映されない家族間の交流を期待する声に応えるような交流の時間を確保するために、食事の座席配置や、簡単な交流会の設定等、工夫をしていく必要がある。

### (2) 広報等

今回、早い時期から(1か月以上前)チラシを配布してきた。また、幼稚園、保育園長の集まりの中で紹介する時間を確保したり、子育てサークルを通してチラシ配布やお誘いをかけていただいた。アンケートの中では、チラシでこの事業を知ったと答える人が多かったが、他事業で、直接声をかけてお誘いをした家庭も参加者の中には含まれており、直接声をかける誘い方の効果を考慮した広報を考えることも必要である。

### (3) 事業プログラムの展開

幼児の集中時間は長くても20分程度であるため、一つ一つのコマが大変長く感じられ、幼児も集中が効かなくなってしまう、親も疲れてしまっていた。このように、幼児のプログラムは時間配分を考えて組み立てなくてはならず、合間におやつを入れたり、ビデオを見たり、用具を使って遊んだり気分転換をさせる必要がある。

親子を離してのプログラムでは、親は子供がいないことで落ち着いて参加できるが、子供は親から離れることが難しい子も多く、子供を飽きさせないプログラムの組み方が必要であった。

雪遊びについては、幼児用のスノーシューの装着が簡単であったことで、準備に手間がかからず楽しむことができた。よって、子供と遊ぶときは、誰でも、手軽に、簡単にできるシンプルなものに向いていると言える。

今回、アンケートの中で、親同士の交流を望む声も聞こえてきた。宿泊を伴う事業だか

からこそ、子育てについて交流したいという声に応えるのであれば、プログラムの中だけでなく、部屋の中や、食事の時などにさりげなく交流できるような仕組みを整えることも必要である。

今年度始めたばかりの事業であったが、まだまだ工夫の余地がある。今年度の運営を最大限生かし、次の幼児・親子事業につなげていきたい。